

梅窓院通信

春彼岸号

No.46

2010/03/01

青山

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島真成



今年の梅窓院は修正会しゆしやうえという、年の初めに行う法要で始まり
ました。

そして、この元旦の行事に四百人を超える方の参拝をいただき、初めての修正会が無事かつ盛大に執り行いましたことを大変嬉しく思っております。

昨年の正月に振る舞わせていただいたお雑煮が好評で、今年お参りいただいた方の中にはお雑煮が食べたいから修正会に参列しよう、という方もいたと聞いておりますが、これは大変ありがたいことです。

昔から神社仏閣の参拝にはその前後でのお楽しみがつきものでした。門前のお店でお土産を買ったり、特産品を味わったり、道中の宿屋で温泉につかったり、参拝にはこうした楽しみがなくはないものだったと言っていてよいでしょう。

梅窓院では、数年前から始めた十夜法要でも芋煮を振る舞っています。こちらはいぶ定着してきており、参拝も増えていきます。そして今年からの修正会のお雑煮と、梅窓院の法要には美味しいお椀がいただける、こうしたことで参拝の方がひとりでも多く来てくだされば誠にありがたいことだと思っています。

まだ、どちらも参列されたことのない方も、お椀に惹かれても結構ですので、一度足をお運びください。

さて、四階に新しく法堂ほうどうができてあります。これは檀信徒のみなさんの年忌法要や葬儀式などで利用していただくためのお堂で、広さは約二十畳で、控室もあります。

最近がご家族を中心とした葬儀や法要が増えてきています。そうしたニーズに応えたいということから、改修に踏み切りました。四階は事務所となっており、職員の出入りもありますが、法堂は落ち着いた空間になっていますので、お気軽にご利用ください。この『青山』がお手元に届く頃にはできあがっていると思いますので、ご利用希望の方は一度お問い合わせをお願いします。

仏教歳時風物詩 (9)

彼岸時分の山野草

新宿区 香蓮寺住職

植

物図鑑に親しむようになったのは、俳句に親しみ、歳時記に親しむようになってからである。俳句の季題に樹木草花が多いのは、俳諧歳時記の季語区分に「植物」の項があり、たくさんの植物名が列挙され、しかもそれぞれの植物の季節に応じた姿や形によって、各季の季語として配分されているからである。その中に、仏教のもろもろにまつわる名前を持った植物名が随分とあり、季語の世界を豊かにふくらませている。

今回は、仏教語に由来する植物名を春の季語の中から選び出し、図鑑の植物図をお見せできないのは残念であるが、彼岸時から春の盛りへの山野草の点景を綴りたい。

春は草木が芽吹き、茎葉も伸び、新しい生命の息吹きを強く感じる季節である。山野の小さな草花も、冬の寒さ冷たさの試練に耐えて、新しい春の到来を喜んで、芽を出し、葉をつけ、花を咲かせるのである。それは、早春から爛漫の春にかけて、梅、桃、桜と華やかに咲き揃う名花・大花とは趣きを変えて、ひそやかに、また誇らしげに咲く、春の野山の草花である。

木の芽の芽立ち、芽張りに目を向け、穂の芽・たらめをまず取り上げる

が、これは落葉低木ウコギ科の穂木の新芽で山野草とはいいがたい。ただ多羅の芽の別称があり、仏典ゆかりの多羅樹(タラ樹)、あるいは新芽が幹のてっぺんにつくところから仏鉢の鉢多羅(パートウラ)に由来する名前であり、紹介した次第。

穂の芽の仏に似たる瀬のひかり (角川源義)

蓮華草は「れんげそう」と読むが、「れんげばな」と読んでもよく、古くは碎米齋と書いたりした。翹揺・紫雲英のことで、げんげん・げんげ花・五形花などともいう。晩秋、稲刈りの終わった枯れ田に種を播き、早春の緑の草葉の後に、三、四月頃、一面に薄紅色の絨毯を敷きつめたように美しい花を咲かせる。小花を輪状につけたありさまが蓮の花に似ていることと、「げんげ」と「れんげ」の音の似通いから、蓮華草の呼称となったという。

華鬘草はケシ科の多年草で、四月頃、淡紅色の花を提灯を並べたように房状に垂れて咲かせる。華鬘とは、生花を糸で綴ったり、結び合わせたりして作った花かずらのこと。クスマ・マーラーというサンスクリット語の義訳語であり、音訳語でもある。首飾りなどの装飾品として、やがて仏に供養

勝崎 裕彦 上人

する品物として、さらに仏前・仏堂の莊嚴具として用いられるようになった。仏の頭飾りも華鬘といい、これに似ているので華鬘草の名がついたともいう。

布袋さまの円満腹に似ているところから名づけられた布袋草は、熊谷次郎直実の母衣に由来する熊谷草・ほろかけぐさの別称である。瑠璃草は玻璃草ともいい、仏典にたびたび説かれる七宝にまつわる植物名である。座禅草はサトイモ科の多年草で、その名も仏炎苞と称される肉穂花序を包む大形の苞を持ち、これが仏の姿、座禅姿に似ていることから名づけられた。達磨禪師に擬して達磨草ともいう。また勿忘草の別称に、青色をふりまいたような花の具合から藍微塵の名がある。仏教語にいう微塵とは、きわめて小さいものことである。加えて、晩春に白く咲く葱の花は葱坊主・葱宝珠・葱の擬宝などと称される。

山野草の新しい芽、まっすぐに伸びた茎、小さな葉、可憐な花——、いずれも、いのちのかぐわしい香りとかがやかしい光り輝きを示している。小さいいのちを尊び、やさしい思いを育んで、はるかに山野の草花に心を寄せることである。

(大正大学教授)

行事報告

今年から始まりました新法要・修正会とお雑煮の振舞いが無事終了致しました。沢山の方が清々しい気持ちで新年を迎えられるよう来年も行いますので、皆様ぜひご参加下さい。



元旦の朝10時から修正会が本堂で行われた。



雑煮



食事風景

春彼岸法要

3月21日(日)

彼岸寄席

午後1時～

2階 本堂



入船亭扇好 師匠

プロフィール 入船亭扇好 師匠

昭和38年長野県生まれ。
昭和60年入船亭扇橋に入門。
平成10年真打昇進。
古典落語を中心に活動。永六輔氏主催の「永住亭」レギュラーメンバーでもある。趣味はスキー、日本舞踊、小唄から古道具集めまで幅広い。

こ 柳家 小んぶ

平成18年9月柳家さん喬に入門。
186cmと落語界一の長身。

春彼岸特別展

今春の彼岸も梅窓院有縁の方たちの特別展を開きます。
ご先祖さまのお参りに合わせ、お楽しみ下さい。

郡上物産展・太王漆器展・螺鈿展
～3月20日・21日～
1階 観音堂

※18日より寺院棟1階にてお数珠・お線香(浄土宗・寺院用)を販売致します。

塔婆申込み方法

同封のはがきを使い3月10日(水)必着でお申込み下さい。
塔婆回向料は **1本 7,000円** とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、**当院受付**までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

お檀家様へお願い

- 3月18日～24日まで、境内駐車スペースは、お体のご自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いします。

春彼岸法要

午後2時～

2階 本堂

寒い中にも早春の息吹が感じられる春のお彼岸の季節となりました。
皆様、お彼岸には、御先祖様や縁者の方の為に御墓参りに行かれる予定の方も多いのではないのでしょうか。御墓参り際には、お墓を掃除したり、お線香を上げ、お墓の前で手を合わせることでしよう。
その中でも手を合わせるしぐさ、いわゆる合掌がっしょうといいますが、私たちは、仏様の前やお墓の前に立つと自然と手を合わせるしぐさをします。葬儀や法要の際にも、必ずこの合掌が用いられます。
普段、何気なくしている合掌ですが、この手を合わせるという仕事の意味を説明しますと、右手は仏の象徴で、清らかなものや知恵をあらわし、左手は衆生、つまり自分自身を表しています。両手を合わせるにより、仏と一体になることや仏への帰依を示すとされています。
そこで一句、行基菩薩様がこんなお歌を歌われています。
ほろほろと鳴く山鳥の声を聞けば、父かと思ふ母かと思ふ
これは「ほろほろと鳴く山鳥の声を聞いてみると、山鳥の声であつても父が呼ぶ声・母が呼ぶ声ではないかと思ひ感うようになると、年を重ねた人であろうと、ふとその方の顔を思い出すことがあるかと思ひます。
このお歌のように、大切な方とのお別れというもの、いつまでも忘れることの出来ない大きな出来事です。
「三つ子の魂百まで」といいますが、仏様やお墓の前に立った時など、又は自宅にお仏壇がある場合などは是非、小さなお子様の頃から自然と手を合わせるような習慣が出来る環境にして頂きたいと思ひます。
近い将来、殺伐とした日本ではなく、温もりのある日本であるように、拜む姿というものを子供やお孫さんに見せていきましょう。
右仏 左は我と合わす掌の 仲ぞゆかしき 南無の一声

(法務部)

平成の大改修で生まれ変わる名刹

九州久留米

大本山 善導寺



電車：JR久大本線善導寺駅より徒歩約15分
車：九州自動車道久留米インターより約15分

浄土宗を開いた法然上人、その弟子で浄土宗の第二祖となつた鎮西上人。法然上人の説いた念仏を九州に広め、さらに浄土宗の第三祖となる良忠上人にその教えを伝えた鎮西上人は、福岡の久留米に善導寺というお寺を創建しました。今からおよそ八百年前のことです。

その善導寺の第六十七世の法主台下（はつすだいか）（大本山住職の尊称）を平成十三年から務められているのが、梅窓院の中島家三代と親交のある東京赤坂の浄土寺住職であった上人です。今回はその 台下とご縁から、遠く九州の大本山を訪れました。上人が善導寺の法主台下になられたのが平成十三年、その二年後の平成十五年から、善導寺は第二次平成大改修に入っています。



ます。平成三年、台風被害を受けた本堂と大門の修理が第一次平成大改修でした。その後、平成六年十二月に大庫裏・釜屋・書院・役寮及び対面所・中蔵が重要文化財の指定を受け、ようやく大庫裏他六棟の本格的な修復工事が始まりました。平成二十五年の完成に向け現在も進行中ですが、発掘作業や解体作業の中で色々な物や歴史が解き明かされています。

日本最古級の水琴窟の発見、日本一大きい大鋸、文化財史初となる江戸時代中期の本堂と庫裏の同時完全復原、弥生時代の甕棺（かめかん）の発掘などです。今回の大改修で、善導寺は魅力ある新しい顔を持つことになりそうです。ぶらり、と簡単には訪れられませんが、梅窓院の団参でお参りしたい大本山善導寺の素顔を日本一尽くして紹介してみましよう。

善導寺の日本一尽くし

その格式と大きさが日本一の釜屋（写真1）
平成二十年三月末に復原完成した釜屋には発掘調査で発見された巨大カマドが復原されています。昔の工法同様、二十年間寝かせた黒漆喰で仕上げたカマドでは実際に火を焚きけんちん汁を作りました。国指定重要文化財建物内の格式あるこのような大きなカマドで実際に炊き出しができるのは日本唯一。

風流な音を奏でる日本一（写真2）

発掘調査で発見された水琴窟は、江戸時代の庭師が考案したもので、甕（かめ）を逆さに埋めて水滴の落ちる音を楽しむ日本のオリジナルの庭園装飾品。善導寺の水琴窟は一緒に植えたと思われるもみじの年輪が三百三十三年ということから日本一古いものようです！！

日本一古い徳川家康公の墓（写真3）

最初に家康公の墓を建立したのは百か日目に筑後の田中吉政領主が善導寺に建てたお墓。実際に納骨はされていないものの、その素早さと供養心に五百石の緑がつき、本堂屋根の五つの三つ葉葵がその証し。久能山、日光阿東照宮の立派な墓とは一味違う日本一古い家康公のお墓です。

箏曲発祥の地はここ久留米の善導寺（写真4）

善導寺にいた浄土宗僧侶、賢順師が筑紫箏を編み出し、これを源流として八橋検校（やっほしけんこう）が出て、さらにその後、生田流と山田流にわかれ現在の箏にと続いています。箏の単独演奏を確立した賢順師の名前を冠した大会が今も開かれ、多くの箏奏者がここ久留米に集まってくるのです。

日本最長の大鋸は長さ二・六メートル（写真5）

大鋸とは二人で挽く大きな片刃のノコギリの



6



5



4



8



7



9

- 1 実際の炊き出しにも使うことのできる大型のカマド。国指定重要文化財の建物内で火が燃やされるのは珍しい。
- 2 江戸時代の庭師が考案した水琴窟は日本独自のもの。一緒に植えられた木の年輪から善導寺で見つかった水琴窟が日本最古の可能性がある。
- 3 以前は建物があったが、今は露座になっている徳川家康公の墓。奥の本堂の屋根には五つの葵の紋が見えるが、これが建基への褒章の証。
- 4 境内の箏曲発祥の地の記念碑。この筑紫箏は現在の生田流、山田流の源で、多くの愛好者、演奏者にとっての聖地。
- 5 日本一の大鋸オノを説明してくれた 師。善導寺は大改築にとまない宝物の整理も行われている。充実する宝物館が楽しみだ。
- 6 左側の光のあたっている楠とその奥の楠は仲良く根が一緒。それにしても見事な枝ぶりだ。
- 7 安産祈願が行われる参道の正面にある三祖堂(善導・法然・聖光の三祖)。善導寺は昔から本山さんと呼ばれ、宗派を問わずの多くのお参りがある名刹。
- 8 復原中の伽藍の説明をして下さる能登原執事長。右手の白いテントが茅葺の屋根となる書院だ。順調な工事も全国のお寺や檀信徒の応援あつてのことだそう。
- 9 余計なものを身につけないのが阿弥陀仏像だが、キリシタンの改宗用にと見事な宝冠をつけられている善導寺の珍しい阿弥陀さま。(宝物館蔵)

こと。善導寺の本堂の縁板には厚み十センチ、長さ二メートル、最大幅一四メートルの楠の木が使われていますが、それを製材したのが、この大鋸。日本に現存する十五本の大鋸の中では一番大きいものです。

鎮西上人お手植えの大楠は樹齢八百年(写真6)
佐賀や鹿児島にある数千年という古木の大楠には及びませんが、善導寺の大楠は三本に見えるうち二本の根が融合して、一本の木と認定されています。いわば夫婦の大楠、日本一のおしどり大楠!?

安産祈願が年間三千件。七五三も善導寺で(写真7)
昔ほどではないものの、今でも善導寺には年間三千件の安産祈願が申し込まれます。その数は日本一か定かでありませんが、大門をくぐった妊婦さんが三門までの間で最初に会った人と同じ性別の子供が生まれるという言い伝えは今も残っています。この信心深さは日本一。

江戸中期の建物の完全復原日本一(写真8)
およそ二百五十年前の庫裏を再現するために、日光、久能山両東照宮などにしか見られない銅瓦葺の屋根に花瓜の寺紋が金色に輝く勅使門、茅葺屋根の広間、本瓦葺の広間、両脇壁が朱漆塗りの真っ赤な壁となる玄関を再現し、使える部材は芯を詰め直すなど、この完全な復原は日本一。

華麗な宝冠の日本おしゃやかな阿弥陀さま(写真9)
観音様をはじめ、色々着飾ったり、様々な物を持っている仏さまが多い中、一枚だけが阿弥陀さまの特徴。だが、この阿弥陀さま、土地柄もありキリシタンの改宗用にきらびやかな宝冠をつけられている。この日本一おしゃやかな阿弥陀さまは一見の価値があります。

(文責/編集部)

今回は平成13年、梅窓院と同じ東京教区赤坂組の浄土寺のご住職から、福岡は久留米にある浄土宗大本山善導寺のご法主台下になられた 大僧正台下にご登場いただきました。

◆この囲む人々では初めて大本山のご法主台下にご登場いただきます。よろしくお願ひします。

台下(以下、台下) 遠くこの久留米に皆さんでようこそ。青山の香りを運んでいただき、ありがたいことです(笑)。

◆台下は善導寺のご法主になられる前は赤坂のツツ木通りに面した浄土寺のご住職でしたが、ご出身は善導寺のある九州の大分とお伺ひしていますが……。

台下 はい、大分です。別府湾の南にある大分港から近い所で浄土寺という同じ寺名のお寺に生まれました。不思議な御縁をいただきました。

◆そうですか、そうしたこともあってでしょうか。この九州の大本山に入られたのですね。この一月から善導寺の台下になられ三期目とお聞きしていますが。

台下 はい、もので、二期八年が過ぎ、これで三期目ですね。

◆一期目の途中から善導寺の平成大修築工事が始まったのですから、色々ご苦勞もありませんかと思ひますが。

台下 はい、大正大学時代の後輩でもある福岡出身の執事長がいてくれますので助かります。工事は予定通り順調に進んでいます。国の指定文化財になったことで、当初、関係者のみなさんは大変な事業になったと思われたようですが、調査が進む中で色々な発見や発掘があり、善導寺にとって歴史文化が明らかになったように思ひます。

◆そうですか、なかでも善導寺の伽藍が二百五十年前同様に復原されるのは、画期的なことそうですね。平成二十年八月に発行された、こちらの寺報『聖光』の第二次平成大修築特集号の特別寄稿を拜読させていただきました、今回の復原工事がいかに貴重かつ歴史的意義のあるものなのかがわかりました。

台下 復原というのは、とても丁寧な仕事の積み重ねのようで、柱一本、床板一枚でも使えるところは全部活かして再使用するようです。職人さんだからできる作業の連続のようです。

◆平成二十五年の完成時には大きな評判を呼ぶことになりそうですね。梅窓院でも団体参拝を組んでお参りに来ないといけませんね。

台下 ぜひ、お出かけ下さい。楽しみに待っていますから。

◆ありがとうございます。大正大学時代からの旧友である台下と執事長の二人三脚のご努力の結晶、ぜひ参拝させていただきます。

ところで、大正大学といえば、台下の経歴を拜見すると学問一筋ですね。

台下 大学では浄土学を学び、大学院時代には法然上人のご生涯を著した四十八巻伝等の伝記類を勉強しました。そして、教授になってからは選擇集を始め、法然上人関係の著作等を求心に研究していましたから、伝記と思想を通してずっと法然上人のお姿を追って参りました。

◆その法然上人の八百回目の法要となる八百年大遠忌が、いよいよ来年にせまりましたが、感慨深いものがあるのではないのでしょうか？

台下 そうですね、振り返れば七百五十年の遠忌の時には浄土学の研究室にいましてね、昭和三十年代の半ばです。その時は記念事業として『絵で見る法然上人』と『三経と礼讃』という二冊の本を出版しました。

昭和4年大分市生まれ。大正大学大学院博士課程仏教学科浄土学満期退学、浄土宗教学院理事、大正大学浄土学主任教授、大正大学名誉教授、大本山善導寺第67世法主、浄土宗勸学院院長。著書に『聖光上人伝と末代念仏授手印』など多数。



大本山善導寺の謁見の間で、左から善導寺 執事長、梅窓院中島住職、善導寺法主 台下、夫人。

浄土学研究室の七人組の先生方で作った本です。

◆七人組ですか、七人の侍みたいで素敵なお響きですね。

台下 七人組とは、当時の浄土学研究室の先生方である浄土寺の 師、極楽寺の 師、心光院の 師が先輩、善教寺の 師、専称院の 師、重願寺の 師が後輩、私を入れてこの七人が浄土学研究室の七人組でした。

その時、五十年後の八百年遠忌を迎えられるだろうか、みんなで話していましたが、今は私以外はもうみんなお浄土に往生されてしまいました。残されているのは私だけです。みなさんの分まで頑張らないといけません。

◆五十年という月日は短くありませんからね。ですが、今の台下のお言葉、極楽で皆さんが笑顔で聞いていらっしゃるに違いありませんね。

台下 そうですね、聞いてくれていると嬉しいですね。

ともかく今日まで命をいただき八百年遠忌を迎えられるのですから、法然上人が何のために念仏の教えを広めたのか、それは凡入報土、即ちすべての人が救われる教えということですから、この上人の教えを一人でも多くの人が理解し、身につけていただくために専心努力することが、法然上人の後ろ姿を追いつけてきた私の使命だと思っています。

◆力強いお言葉をありがとうございます。私たちも新たな気持ちで法然上人の教えにふれたいと思ひます。本日は大変ありがとうございました。



二度目の遠忌を迎えられる 台下。八十歳となられ、なおご壮健だ。

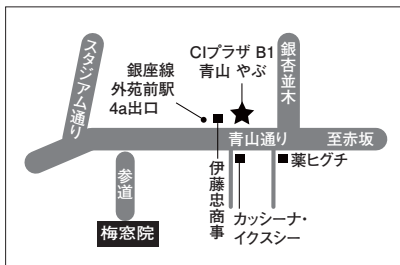
そば処 青山やぶ

戦前から続く憩いの蕎麦屋

梅窓院近くのC1プラザで三十年も続く老舗のお蕎麦屋さん。戦前のお祖父さんの代からこの地で営んでいる。社屋移転後も、懐かしさから社員ぐるみで集まる方も多そう。

豊富なメニューから、基本の天ざるを頂いた。時期によって異なるが、希少な胚芽から挽いた麺は白く、繊細な細さ。しかし驚くほどコシがあり、甘

みの強いツユとよく絡む。寒い時期は温かいお蕎麦が恋しくなるが、蕎麦好きには是非冷たいお蕎麦も味わってほしい。ランチで人気のそば弁当は限定二十四食なのでお早めに。
夜の一品料理も種類が豊富で、全て職人さんの手作り。出来合いは一切使わない。
ご家族で同僚で友人同士で、老舗の味を噛みしめたい。



営業時間/11:00~21:30 (LO20:45)
土曜11:00~15:00
定休日/日曜日・祝日
住所/東京都港区北青山2-3-1 C1プラザB1
TEL/03-3470-5782
FAX/03-3470-5782



▲外観



▲人気のそば弁当、950円。



◀お店のアイドルー休さん。周りにはお賽銭がたくさん。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○ 大殿へ渡る回廊冬紅葉

◎入選

- 阿夫利嶺の雨後の空ゆく冬燕
- 磨きゆく窓におさまり冬の雲
- 張替へし障子を閉めて常の座に
- 上流に瀬音ありけり冬紅葉
- かな文字を心ゆたかに初硯
- 今年また肩までつかる袖湯かな
- 元旦に富士山を眺めて無事祈る
- 寒雀ながめる老爺背を丸く
- 祈る手をしづかに合はせ初詣

◎選者詠

○ 凍滝にかくれて水の落ちにけり

（ワンポイントアドバイス）

「春の海ひねもすのたりのたりかな」は朝から夕方までの長い時間を詠んだ句。「夏草や兵どもが夢の跡」は目の前にある風景の今を詠んだ句。このように時間の幅を詠みこんだ句と今だけを詠みこんだ句があります。俳句を作るとき、この「俳句内時間」をどうするかを時どき考えてみることも必要です。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月6日を締切り、6月発送の『施餓鬼号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第三十八回

食は命

食養研究家 武鈴子

菜の花は 血流をよくする

婦人病の妙薬

春の食卓を彩る緑鮮やかな菜の花料理。辛し和え、お浸し、菜の花漬け、そして菜の花チラシは蛤のお吸い物とともに雛祭りのうれしい一品です。春のおぼろ月を「菜種月」といい、菜の花の咲くころに降る長雨を「菜種梅雨」と呼ぶように、菜の花は春を象徴する野菜です。茶の湯では利休忌に利休にこの花を捧げてから、使うようにと教えられているようです。

菜の花や月は東に日は西に(蕪村)の句に郷愁を覚える人は多いのではないのでしょうか。私は薬膳の研究で訪れた四川省の春の行けどもいけども果てしなく続く菜の花畑に目を奪われた日のことが思い出されます。菜の花は、古血の滞りを除いて血液循環をよくする働きにすぐれ、乳腺炎や急性熱毒血症、悪性のできものなどに用いられてきました。現代栄養学でも、ビタミンCやカロテンなどの抗酸化物質やカリウムが豊富で、高血圧や動脈硬化を予防し、血液循環を改善する効果があることが確認されています。

葉菜類中、最も脂肪に富んでいるため、それだけ美味とされます。菜の花にちりめんじゃこを組み合わせた春のチラシ。急な来客のおしのぎにいかがでしょうか。

菜の花の五色ちらし

菜の花は固めに茹でて適宜切り、塩をふっておきます。レンコンは酢バスに、しいたけ、にんじん、ささがきごぼうは濃い目の味付けで煮ふくめます。卵は薄焼きにして細切りに。カリカリ梅は細かく刻んでおきます。すべての具を酢飯に混ぜ、最後に白ゴマをふりかけます。白、黒、赤、緑、黄の五色が揃う華やかで味も見た目もバランスのよい一品です。

行事予定

春彼岸会法要

3月21日(日) 寄席 午後1時～ 本堂
法要 午後2時～ 本堂

※詳細は3面をご覧ください。

増上寺 御忌大会(ぎよきだいえ)

4月2日(金)～7日(水)

増上寺において御忌法要(浄土宗の宗祖法然上人の忌日法要)が盛大に執り行われます。3日は御忌詠唱奉納大会が開かれ、梅窓院詠唱会の皆様に参加致します。

皆様も是非参詣され、法然上人をしのび、ご恩徳に感謝いたしましょう。



はなまつり

4月3日(土)～8日(木)

寺院棟2階 本堂

お釈迦様の誕生をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。



団体参拝旅行

日光 輪王寺

5月15(土)～16日(日)

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

第50回 念仏と法話の会

6月10日(木)

時間 12時半～(受付12時より開始)

法話 「念仏と禅」

川添崇祐上人

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

郡上おどり

6月中旬開催予定

※詳細は次号でお知らせ致します。

発行/梅窓院
発行日/平成22年3月1日
発行人/中島 真成
編集/青山文化村
住所/〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
題字/中村康隆前浄土門主総本山知恩院 第八十六世門跡
表紙写真撮影/青山幸文

平成22年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成22年度 前期 仏教講座を開講します。昨年度より引き続き5名の講師の講座となります。どうぞお気軽にご参加下さい。※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂(B2F)

講師/阿川 正貫 先生(浄土寺住職 大正大学講師)

講題/古都洛陽と仏教

第1回…5月12日(水) 後漢を中心に
第2回…8月11日(水) 北魏を中心に
第3回…9月14日(火) 隋・唐を中心に



講師/新井 俊定 先生(天然寺住職 大正大学出版会主管)

講題/『四十二章経』を読む

第1回…5月27日(木) 戒をまもる
第2回…7月1日(木) 巧みな比喩
第3回…9月7日(火) 生きた教訓



講師/勝崎 裕彦 先生(香蓮寺住職 大正大学仏教学部長・教授)

講題/大乘仏教を読む

第1回…6月17日(木) 般若経の世界①
第2回…7月29日(木) 般若経を読むI 一常啼菩薩の教え
第3回…8月26日(木) 般若経を読むII 一法上菩薩の教え



講師/林田 康順 先生(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

講題/法然上人のみ教え—『選択集』を読む—

第1回…4月19日(月) 『選択集』撰述の背景—建久九年の法然上人—
第2回…5月17日(月) 『選択集』第1章①—聖道門—
第3回…6月21日(月) 『選択集』第1章②—浄土門—



講師/本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学等講師)

講題/ブータン・スタイル—幸福のカタチ—

第1回…4月30日(金) GNHとGNP
第2回…6月4日(金) 衣・食・住
第3回…8月6日(金) 仏教世界観



我が家の宝物!

投稿者より

スープの冷めない位置に住んでいて、二人でたのしくピアノのレッスンに通っています。暖かくなったらバレエのおけいこも始めるつもりです。音楽と踊りが大好きですから……。自他共に認めるババ馬鹿ちゃんりんです。(祖母・)

編集部より

ちゃん(3歳)

笑顔がとっても可愛い ちゃん。おばあちゃんとのおすましポーズもバッチリです。

お写真大募集!!

お孫さんと一緒のお写真と推薦者のおいしいちゃん・おばあちゃんのコメント(30～150字程度)を青山文化村までお送り下さい。お孫さんのお名前、お年も忘れずに。(お送り頂いたお写真は返却できませんので予めご了承下さい)

〒107-0062 港区南青山2-26-38 青山文化村「我が家の宝物(まご)」募集係

秋彼岸写真展開催

今年の秋彼岸に行く予定のお彼岸ライブにて、写真展を開催致します。そこで皆さんの撮られたお写真を展示してみませんか? ライブ会場に皆様のお写真を飾らせて頂きます。今回のテーマは「青山」です。「青山」にまつわるお写真でしたらカラーでもモノクロでも構いません。ライブ当日に人気投票を行い、一位の方には景品を差し上げる予定です。

詳細は次号施餓鬼号にてお知らせ致しますので、それまで皆さんお写真を撮りためて置いて下さい!